

「ベトナム国家大学ハノイ校サマースクール派遣参加報告書」

京都大学理学部 4年 中村 陸人

1. 学習成果

今回のプログラムが初めての海外経験で、ベトナムの文化を実感するとともに改めて日本の文化を見直すきっかけとなった。特に、言語の面での違いを改めて意識させられた。実際に現地に行く前には、カタカナ読みでベトナム語を話せたら何とかできるだろうと考えていた。しかし、大学での授業や現地の人々との交流を通じて声調や発音も含めてきちんと話せないと通じないことを知った。声調の違いで意味が変化することも多いからだ。それでも2週間無事に過ごすことが出来たのは、現地のサポーターの方が日本語でサポートしてくれたからである。私の拙いベトナム語を理解し、できるだけ日本語で話そうとしてくれた現地のサポーターに感謝したい。そして、今度海外に行くときは他の人に頼らずに済むように、事前の準備を入念にしようと考えようになった。今度は発音や声調もきちんと学び、自分一人でも現地で生活できるように今後ベトナム語をより学習していきたい。

共同発表ではベトナムと日本の米文化について発表した。同じアジア圏に属するベトナムも日本も米を主食としているが、両国の米文化にどのような違いがあるのかを明らかにするためだ。とくに記憶に残っているのが、フォーというベトナム料理の名前の語源がフランス語から由来するかもしれないという説だ。ベトナムの米文化が植民地支配で影響を受けていたのかもしれないと思った。そのような植民地支配により、日本とベトナムの米文化に違いが生まれたのかもしれない。

2. 海外での経験

今回が初めての海外経験であったが、印象的だったのは意外と英語が通じないということである。もちろん空港や現地の大学内では大抵の場合英語が通じたが、それ以外の場面でベトナム語以外通じないということが案外多く驚いた。英語が世界共通語であることは疑いのない事実であるが、それでも通用しないことがあるので現地の言葉の話せることの意義を改めて実感した。また現地の言葉を使えることで、よりその国についての理解が深まると思うので、その点でも現地の言葉の話せることが重要だと思う。

3. プログラム内容

主な内容はベトナム国家大学ハノイ校の人文社会大学と外国語大学で、日本語やベトナム語による講義を受けることである。現地の学生や、偶然同じ時期に留学に来ていた昭和女子大学からの留学生と共に授業を受け、よりベトナム語やベトナム文化に対する理解を深められた。現地の学生からはベトナムの学習に関する文化について、昭和女子大学からの留学生からはベトナムと日本との学習スタイルの違いについて話を伺えた。

また、実地研修を通じて、古くからあるベトナムの風習や文化について学習できた。ドンラム村やベトナム民俗村ではベトナムの衣食や少数民族の生活習慣について理解を深めることが出来た。Trang An ではベトナムのお寺等を訪れ、ベトナムの建築様式について理解を深めることが出来た。

4. 進路への影響について

私はこれまで海外経験が無かったこともあり、世界情勢を常に日本の観点からでしか意識していなかった。しかし、今回のプログラムを通じて、ベトナムから見た日韓関係や日中関係について現地の学生や先生から話を伺い、日本という国を国際的観点から客観的に見つめる機会になった。この経験はこれまで日本の立場に偏った報道しか見てこなかった自分にとって新鮮な経験であった。今後は日本のためだけでなく、世界の中の日本としてどうあるべきかを考えられるような人間になりたいと思った。そして日本だけでなく海外で勉強あるいは、生活してみたいと思えるようになった。将来はベトナムも含め様々な国々で経験を積み、世界規模でより適切な判断ができるようになりたい。